

第56回 卒業生



第56回 卒業生のみなさんへ



卒業式は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校関係者のみでの開催となりました。階段教室は少し狭い感じがありましたが、かえって、みなさんの顔はよく見えました。厳粛な雰囲気の中、新たな旅立ちへの決意を感じました。

看護においては、さまざまな人と意思疎通をはかる「コミュニケーション能力」が重要です。患者の意思を確認することはもちろんですが、多職種のスタッフと連携をとるため、相手の話を「正しく理解する力」と相手に「正しく伝える力」が求められます。

患者の様子を見て、ちょっとした変化にも気づくことができる「観察力」と、患者の気持ちをイメージする「想像力」も必要です。常に自ら考えて行動し、ちょっとした患者の変化にいち早く気づくことが大切です。

よい看護を実践するために最も重要なことは、「自分自身が健康である」ということです。看護という仕事は、日々、緊張感やストレスにさらされるので、仕事以外の時間は、仕事を忘れてリフレッシュすることも大切です。日ごろから、オンとオフを上手に切り替えてストレスを発散して下さい。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、大変な時が続くと思いますが、みなさんが心身ともに健康で、立派な看護師として活躍されることを願っています。

国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校 学校長 下瀬 省二



1年生

1年生では、本来ならスポーツ交流会や学校祭など多くの行事が行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で戴帽式は縮小開催となり、その他の行事は中止となりました。その状況の中でも8月と1月に2度の臨地実習に行かせていただきました。患者さんと向き合うことの大変さ、自分の技術、知識の未熟さや甘さを痛感しました。また、この時期だからこそ学ぶことのできる有り難さを改めて感じ、密度の濃い授業につなげていくための良い機会となりました。

58回生 原 優花



3年生

3年生では、集大成として実習、講義など様々なことに全力で挑みました。看護師国家試験に向けて、朝早くから放課後も遅くまで先生方や家族、スの影響により様々な学校行事が中止となってしまいました。そんな中でも、看護師国家試験が近づき不安もだんだんと大きくなっている頃、出陣式をして下さり、先生方から温かいメッセージや激励の品々を頂いたことで、国家試験本番では100%以上の力を発揮することができたと思います。

56回生 石谷 一姫



2年生



今年は新型コロナウイルスの影響で学校生活が一変し、学校行事の中止、オンライン授業、臨地実習が学内実習に変更と不安や戸惑いを感じる事が多い1年でした。学内実習では、一般論と照らし合わせた学習や、病棟を想定した技術練習を行い、知識や技術力が不十分であることを痛感しました。その中で先生方の心温かいサポートや学生同士の助け合いにより、学年全体の団結力が高まり、改めて人と人のつながりの大切さを学び得ることができました。また、臨地実習では患者さんとの関わりから技術や看護の大切さを指導者さんより多くの助言をいただき、看護の経験と学びを深めることができました。自分たちの状況を多くの方々がサポートしてくださり、この1年間で学んだ看護を3年生となりさらにより良い学びとなるよう、57回生皆で努力していきたいです。

57回生 長岡 沙季



卒業生より

6 B病棟 坂根 由姫 54回生



私は、当校を卒業し、現在呉医療センターの消化器内科6 B病棟に勤務しています。6 B病棟の特徴は内視鏡治療を行う患者さんや、終末期患者さんがおられます。また、2人1組になり看護をしています。ペアになることで相談しやすく、わからないことがあれば1つずつ丁寧に教えてくださりとても優しく明るい雰囲気部署です。

就職して2年間で終末期患者さんに関わる中で多くことを学ぶことができました。終末期患者さんの多くはせん妄を誘発しやすく、どのように関わればいいのか、どのように看護をしていけばいいのかかわからず、悩んだことがありました。そこで、先輩看護師の関わり方を見て学びアドバイスをもらうことで、多職種と情報共有しながら自宅退院への支援を行うことができました。このように人生の最後をその人らしく看取ることや個別性を大切にしていきたいと改めて考えることができました。まだまだ学ぶことが多いですが、やりがいを感じながら今後も頑張っていきたいと思います。

7 A病棟 芳野 綾香 55回生



私は、7 A病棟で勤務しています。7 A病棟は泌尿器科、呼吸器外科、皮膚科の混合病棟で、様々な疾患に対する看護や手術前後の看護について学べる部署です。

配属された当初は何が分からないのかも分からない状況でしたが、一から手取り足取り先輩方が優しくご指導して下さり、今では看護技術や手術対応も独りでできることが増えてきました。また、環境の変化から「しんどいな」と思う時もありましたが、看護師長さんをはじめ先輩方が「最近どう？困ってることない？」と精神面でもフォローして下さり一年間頑張ることができました。

学生の皆さん、試験に実習に大変だと思いますが、就職したときにその努力は無駄にならないと私自身感じています。くれぐれも体調に気をつけて頑張ってください。

編集後記

卒業生の皆様、お元気ですか？皆様の職場でも、COVID-19の影響で、多くのご苦労があったのではないのでしょうか。呉看護学校でも、ほとんどの学校行事は中止・縮小となりました。その一方で、Webを用いた遠隔授業など取り入れられ、一気にIT化が進みました。

今後、どのようなことが起こるか分かりませんが、大変な時こそ、チャンスにできるように、皆様の心身のご健康を祈念します。

編集長 森定 ゆかり
編集委員 小杉 恭子

